

小田原の原三溪 一三溪の関心の在りどころ

発表者：藤嶋会員

箱根の芦之湯と強羅に別荘を持っていた原三溪は、小田原でも大勢の友人・知人を訪ねていた。茶会や美術品のコレクションを通して彼等との親交を深めながら、歴史と自然に囲まれた小田原で三溪はどのような見聞を広めていたのだろうか。大勢の友人の中から「唐人町」の平心庵（近藤外巻）と「掃雲臺」の鈍翁（益田孝）を軸にして、「早雲寺」の三溪をからませる。その際『原三溪翁伝』を中心に、『三溪集』から漢詩、『三溪画集』から三溪が描いた絵を取り上げ、さらに『平心庵日記』と『自叙益田孝翁伝』ほかの文献を参考にし、なおかつ現地を歩いて三溪の関心の在りどころを探った。（藤嶋）



原富岡製糸所の前夜 一官営時代のありかたをめぐって一

発表者：速水会員

私が調査研究している官営富岡製糸所の所長を務めた速水堅曹の業績から、後の原富岡製糸所へつながるものを紹介した。

速水堅曹は大正2年に亡くなるが、その時の新聞の訃報記事に「現存の模範工場原富岡製糸所の基礎を造れる」という人物評が載っている。その基礎はどういったものだったのか。例えば、工女のために読書、算術、作文、習字、裁縫、茶ノ湯、插花などを教える夜学校は、明治13年に速水堅曹によって開設された。官営時代に堅曹が明治天皇のもとへ届けた「富岡製糸所の長歌」から読み取れる製糸所の在り方や存在意義、生き生きと働く工女達の精神は、原時代に開業時の工女達の錦絵を再発行したことや昭憲皇太后の詠まれた和歌を大切にしたことなどに引き継がれている。（速水）



三溪さんのお墓参り

8月16日が三溪さんの命日なので、有志で久保山のお墓へお参りしてきました。



掃き掃除をしています



三溪さんの墓前で記念撮影



「三溪原先生之碑」側面には横浜の海岸線の図